

## 別紙

## 第61回 静岡県公衆衛生研究会 優秀演題ホームページ掲載要旨

分科会名	第1分科会	演題番号	126
題名	東部保健所管内の結核患者の特徴と課題		
所属	東部健康福祉センター		
氏名	○松内里歩、田口敦子、青木知子		
要旨 (簡潔に)	<p>感染症サーベイランスシステムから出力した令和2年1月1日から令和6年6月30日までの東部保健所管内の結核新登録患者及び潜在性結核感染症184名及び静岡県（以下、県と略す）の同952名を対象に性別、登録時年齢、国籍、職業、発見の経緯等の比較分析を行った。その結果、年齢では県よりも29歳以下の若年層（以下、若年層と略す）の発生は少なく、50歳代・70歳以上の発生が多い傾向が見られた。一方、職業では医療職・介護者の割合が県と比較して高かった。また、健康診断での発見よりも、有症状にて医療機関受診で発見される割合が高く、初診時の排菌量が県と比較して高い傾向にあった。さらに、この期間の若年層19名を抽出したところ半数が日本人で、コッホ現象を除く全員が医療職・介護職者であり、残りの半数は外国人であった。管内外国人人口の推移をみると、特に東南アジア諸国の増加が著しい状況だった。</p> <p>これらのことから、当所では1. 医療職・介護職者に対する罹患防止の対策、2. 中高齢者に対する普及啓発、3. 医療機関・施設に対する早期発見の重要性の周知、4. 外国人へのきめ細やかな対応が必要であることが示唆された。</p>		